

令和5年度指導教諭による授業公開実施報告会を実施しました。

3月5日(火)に管内の指導教諭の先生方を対象に、「令和5年度指導教諭による授業公開実施報告会」を実施し、今年度の振り返りを行いました。

「令和5年度指導教諭による授業公開」は、164名の多くの先生方が参加していただきました。事後のアンケートでは、受講された先生方の90%以上が「満足した」との回答をされていました。

また、今年度も実施いたしました年度末学校訪問の中でも、校長先生方から「指導教諭の先生方の優れた実践を校内で取り入れ、全職員で深めている」、「校内研修で情報を共有し、各学年に応じた形で日々の授業に生かしている」等、感謝の言葉をいただきました。

会の中では、12月1日(金)実施の宮崎市立檜小学校 増岡 亜衣子指導教諭の授業公開に受講された宮崎市立佐土原小学校の柏原 沙希教諭に「授業公開に参加しての感想」、「授業公開参加後に実践していること」、「今後の授業公開に期待すること」の3つについてインタビューを行いました。

以下がインタビューの内容です。(※一部抜粋したものを記載しています。)

1 授業公開に参加しての感想

授業づくりを行ううえで一番は、子どもの学びを見とる力、一人ひとりの学びをつなげるコーディネート力が教師として大切だなと感じました。

また、実践発表では各教科との関連性や学習指導要領を基にした丁寧な授業づくりが大切だと分かりました。

2 授業公開参加後に実践していること

国語の授業において、初発の感想を書かせる際には、いくつかの視点の中から自分で選ばせて書かせるという増岡先生の実践を参考にさせていただいています。そうすることで、子どもたちの「なぜ?」という内面からの問いを中心にした授業づくりができるようになってきました。

また、子どもたちが自分の考えに自信をもつことができるように、学習のツールや学習形態を自ら主体的に決めながら学習を深めていくということも参考にさせていただいています。



3 今後の授業公開に期待すること

指導教諭の先生の授業を見た後に、別の指導教諭の先生がその授業をどう見たのかというのが気になりました。いろいろな先生方(授業の)見方を学べると私たちも授業を見た時に「指導教諭の先生方は(授業の)そういうところを見ているんだ。」「自分と(授業を見る)視点がこういうところが違うんだ。」ということに気付くことができるので、それがまた自分の教材研究や授業づくりに生かせると思います。

今後とも授業公開をしていただいで私たち若手にたくさんの学ぶ機会を与えていただけるとありがたいです。

本年度も指導教諭の先生方の御理解・御協力を得て、多くの先生方の学びを深めることができました。次年度は今年度課題として挙げました「受講者の先生方のアウトプットの時間の確保」、「研修内容の精選」等を踏まえて、よりよい形で御提供できますように準備を進めてまいります。

一年間ありがとうございました。

近年、教員の大量退職・大量採用等を背景に、従来の学校組織において自然に行われてきた知識及び技能等の伝達(いわゆるOJT)が困難になるなど、先生方を巡る環境が大きく変化しています。その変化の激しい時代において、授業づくりで悩まれている先生方が自信をもって目の前の子どもたちの教育活動に向き合えるよう、今後とも教育事務所として精一杯支援していきたいと思っております。

来年度も「学力向上」「特別支援教育」「生徒指導」などの重点課題を中心に、学校の伴走者として積極的な支援に努めてまいります。今後ともよろしく願いいたします。

問合せ先: 中部教育事務所 Tel (0985) 44-3322 Fax (0985) 44-3330
(担当: 酒匂) 代表アドレス chubu-kyoiku@pref.miyazaki.lg.jp

中部教育事務所は、各学校のマネジメント力を高め、チーム学校としての教育力向上を支援します。

協働的な学びをスタンダード化するために、4月から取り組む学級経営 ～『協働的な学びで育てたい力』～

一人一人の児童生徒が、自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値のある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となることができるようにすること。➡ [個別最適な学びと協働的な学びの一体的充実]

【思考ツールを使った協働的な学習】

- KJ法 ○ ランキング法 等



協働的な学習を「**学級の十八番**」とする

- ① 学級活動等で方法をつかませる（1学期初）
- ② 教科等でとにかく活用する（1学期中～後）
- ③ 時間内に確実に班の結論を出させる訓練を行う（1学期中～後）

協働的な学習を通して
「よく分かった」
「助けてもらった」
「自分の意見が含まれている」
という**成功体験**を児童に
数多くさせているか？

なぜ協働的な学びが必要なのか？それが定着すると何がよいのだろうか？

①子ども主体の授業 & 学び方の理解



- 何を
- どのように考え
- どのように活動し
- どのように表現するか

結果

活気
テンポ

④連続した思考スキルを働かせる学びの定着



- 思考・判断・表現
することの習慣化

結果

思考力の育成
判断力の育成
表現力の育成

②主体的に学びに向かう態度の育成



- 班の一人一人に責任と役割が生まれる
- 短時間で最適解・納得解を導くため全員の思考が必要

結果

全員が学び
に向かう

⑤他者の考えを尊重する態度の育成



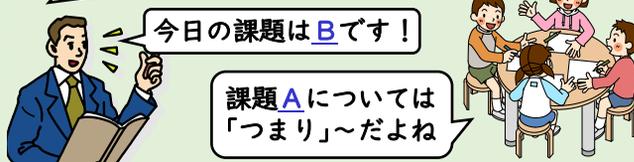
折衷案を出せる

学級経営の基盤

協調性・社会性

⑥最適解・納得解を導くことの日常化

今日の課題は**A**です！



実社会・実生活において積極的に課題解決をしていく能力と態度の育成

③決められた時間でまとめる力の育成



- 定められた時間内や難解な課題に対しても必ず協働して最適解等を導くことの習慣化

結果

未知の問題に
対応する力

他にも様々な力などを育成することができます。では、4月の学級経営において、協働的な学びを定着させるための一つの方法について、詳しく説明します。

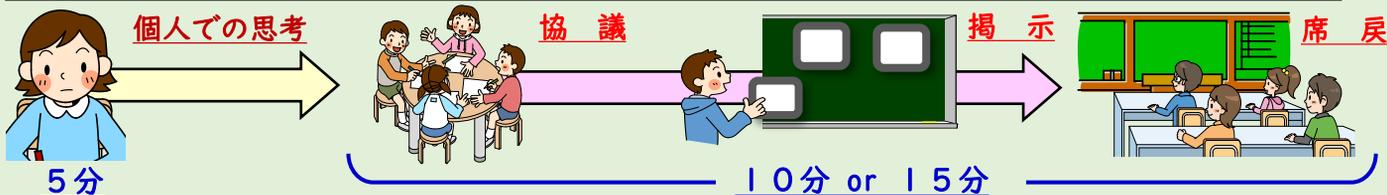
協働的な学びをスタンダード化するために、4月から取り組む学級経営 ～『協働的な学びで育てたい力』～

一人一人の児童生徒が、自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値のある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となることができるようにすること。➡ [個別最適な学びと協働的な学びの一体的充実]

協働的な学びの日常化に向けて、4月からの学級経営をどのように進めればよいのだろうか？

★ 個人・班で思考する時間を厳守させる！ ※4月から習慣化を！

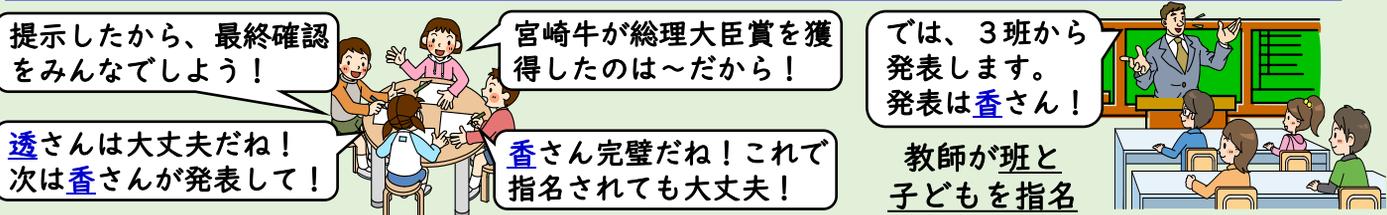
席戻(セキレイ)
※班を解くこと



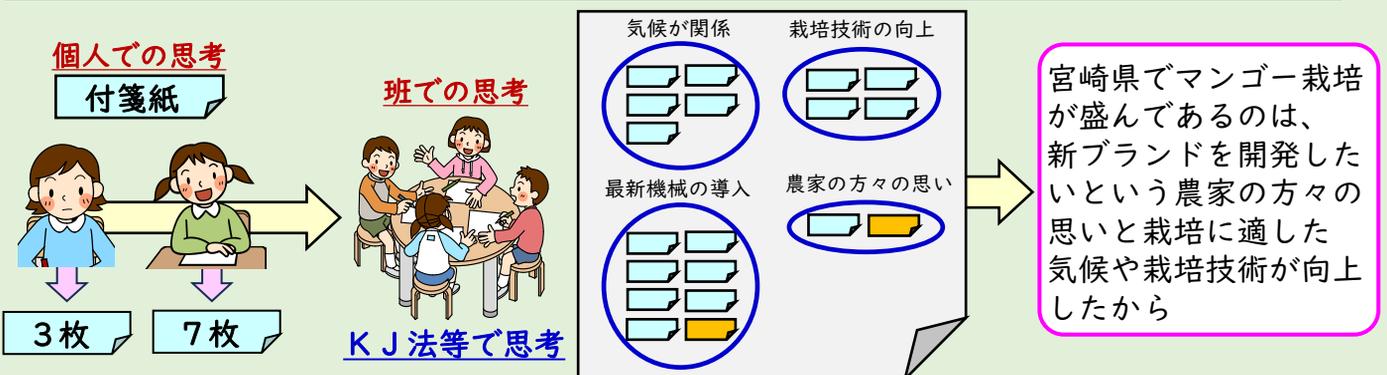
★ 時間は子ども自ら時計を確認し、班づくり・席戻



★ 班の全員が最適解・納得解を理解し、誰でも発表できる状態にして席戻！



★ 個人思考で書いた付箋をKJ法等で必ずどこかのカテゴリーに位置付ける！



□ 付箋の考えが十分でない場合でも「マクロの視点から見ると」「解釈を変えてみると」等柔軟に考えていずれかに位置付ける (※多面的・多角的な見方の育成！)

★ 付箋等にかかれた相互の意見については、必ず尊重し、価値付けする！

